

ワクチンを受けましょう

2005.10.21

こども達は病気と戦うにはとても弱い立場にあります。生後6ヶ月、お母さんからたっぷりもらった免疫がなくなるころから、ウイルスや細菌に曝される度に自分の力で一つ一つを克服して大きくなっていきます。多くは自分の力で克服できますが、あるときには病院にいてウイルスや細菌を退治してくれる薬を飲んで克服することもあるでしょう。病気にならないですむのであれば、それにこしたことはありません。そのために行うのがワクチンです。

ポリオはワクチンの普及によって全世界でほぼ制圧できつつあります。

BCGは結核の中でも重症な髄膜炎や骨髄炎には大変有効です。

百日咳はこどもでは脳症を起こすなどその合併症はあまり知られていませんが、一歩間違えると死に至る病です。

ジフテリアや破傷風はワクチンをしなければ自然に免疫を得ることはできません。

麻疹はアメリカやヨーロッパではほぼ制圧できている病気ですが、日本やアジアでは散発的に発生しています。最近は、お誕生日に麻疹ワクチンをというキャンペーンでずいぶん発生数が減り、今年はおそらく100以下の発生になるものと思われませんが、百日咳と同様にこどもにとって罹ってしまうことが危険な感染症であるのは変わりません。

風疹は流行すると赤ちゃんに先天性風疹症候群という重い障害が出る場合があります。男の子もワクチンを受けるようになり、その発生は劇的に減りました。

みずぼうそうは予防すると将来の帯状疱疹の発生が減るのではないかと期待されています。

おたふくかぜは合併症に不治の難聴があり、ワクチンでぜひ予防したいものです。

10月から11月はインフルエンザのワクチンを受けなければと思う保護者の方が多いと思いますが、この機会を利用して母子手帳を確認して受けていないワクチンがありましたら、ぜひ受けるようにしてください。任意のワクチンはお金がかかりますが、失った有給休暇と賃金よりはるかに安いものです。